小　学　校

平成２４年度

教育研究員研究報告書

特別活動

東京都教育委員会

目　　次

Ⅰ　研究主題設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

Ⅱ　研究構想図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

Ⅲ　研究の仮説と視点、研究方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

Ⅳ　研究内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4

Ⅴ　仮説検証の視点と手だて、その検証授業と実践例

　１　仮説検証の視点と手だて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7

　　視点１　共同の目標をもたせる・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　8

　　視点２　活動の見通しをもたせる・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２

　　視点３　役割意識を高める・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６

　２　学級活動（２）「日常の生活や学習への適応及び健康安全」における
　　検証授業と実践例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０

Ⅵ　研究の成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２３

研究主題

よりよい生活を目指し、『協同』して取り組む児童の育成

Ⅰ　研究主題設定の理由

近年、都市化、少子高齢化、地域社会における人間関係の希薄化などが進む中で、家庭や地域社会において社会性を身に付ける機会が減少している。また、情報化の進展により、間接体験や疑似体験が膨らむ一方、望ましい人間関係を築く力などの社会性が身に付けにくくなっている。このような中で、児童の対人関係が未熟なままに、協力してよりよい生活を築くことができないことが指摘されている。

学校教育においては、自分に自信がもてず、人間関係に不安を感じている児童が増加している。失敗を恐れるあまり、進んで行動することやものごとに対して真面目に全力で取り組むことを軽視する風潮もある。また、他人への関心が低く、友達と表面的に付き合う姿も見られ、「望ましい人間関係が築けない」「社会性が身に付いていない」ことが課題となっている。このような現状において、望ましい人間関係を築く態度を形成し、多様な他者と協力して生活上の諸問題を解決して、よりよい生活を築くことができるようにするためには、学校における望ましい集団活動や体験的な活動を一層充実することが必要である。特別活動が果たす役割は重要である。

学校教育における「よりよい生活」とは、所属している学級・学校の生活の充実と向上を指す。よりよい生活を築くためには、児童が学級や学校の生活の中から課題を見いだし、その課題を学級の児童全員で共有し、活動目標を設定することが必要である。そして、目標を達成するための方法や手段を学級の児童全員で考え、目標を目指して協力して実践していく。

本研究では、話合い活動準備から実践の振り返りまでの一連の活動を貫く目標を設定し、一人一人の児童が目標について常に意識することにより、児童の課題解決への意識、活動への意欲を高める。一人一人の児童の意欲が高まることにより、学級集団の課題解決への意欲が高まり、児童が協同して活動に取り組むことができるようになると考える。

そこで、学習指導要領改訂の趣旨を踏まえ、研究主題を「よりよい生活を目指し、『協同』して取り組む児童の育成」と設定した。『協同』を「一つの目的を達成するために、メンバーが補完・協力し合うこと」と定義付けた。そして、研究仮説を「児童一人一人に、共同の活動目標や活動の見通しをもたせるとともに、役割意識を高める指導の工夫を行うことによって、よりよい生活を目指し、協同して取り組む児童が育つであろう。」と設定した。さらに、『協同』して取り組む児童を育成するために、研究の視点として、次の３点を設定し研究を進めることとした。視点１共同の目標をもたせる、視点２活動の見通しをもたせる、視点３役割意識を高める、これらに対する具体的な手だてを設定し、学級活動の効果的な指導方法を明らかにする。

目指す児童像
- ○共同の目標に向かって、協力する児童
- ○みんなで活動することを大切にする児童
- ○集団の中で役割が分かり、すすんで取り組む児童

Ⅱ　研究構想図

児童の実態
自分に自信がもてない。
活動意欲をもてない。
自己中心的で他人への関心が薄い。
自分たち自身で課題を見付けることが難しい。

小学校学習指導要領解説特別活動編（平成 20 年 8 月）
特別活動改訂の趣旨
・よりよい人間関係を築く力、社会に参画する態度や自治的能力の育成の重視
・子どもの自主的、自発的な活動の重視
・好ましい人間関係を築き社会性を高めるための体験活動や生活を改善する話合い活動の重視

「子ども熟議」のすすめ
変化が激しく、未知の課題に直面する時代においては、他者と共生・協同し、知恵をもちより、未来を切り拓いていくことが求められる。特別活動で子どもたちが話合いと実践を通してよりよい学級や学校生活を創る取組を推進している。

目指す児童像
・共同の目標に向かって、協力する児童
・みんなで活動することを大切にする児童
・集団の中で役割が分かり、すすんで取り組む児童

研究主題
よりよい生活を目指し、『協同』して取り組む児童の育成

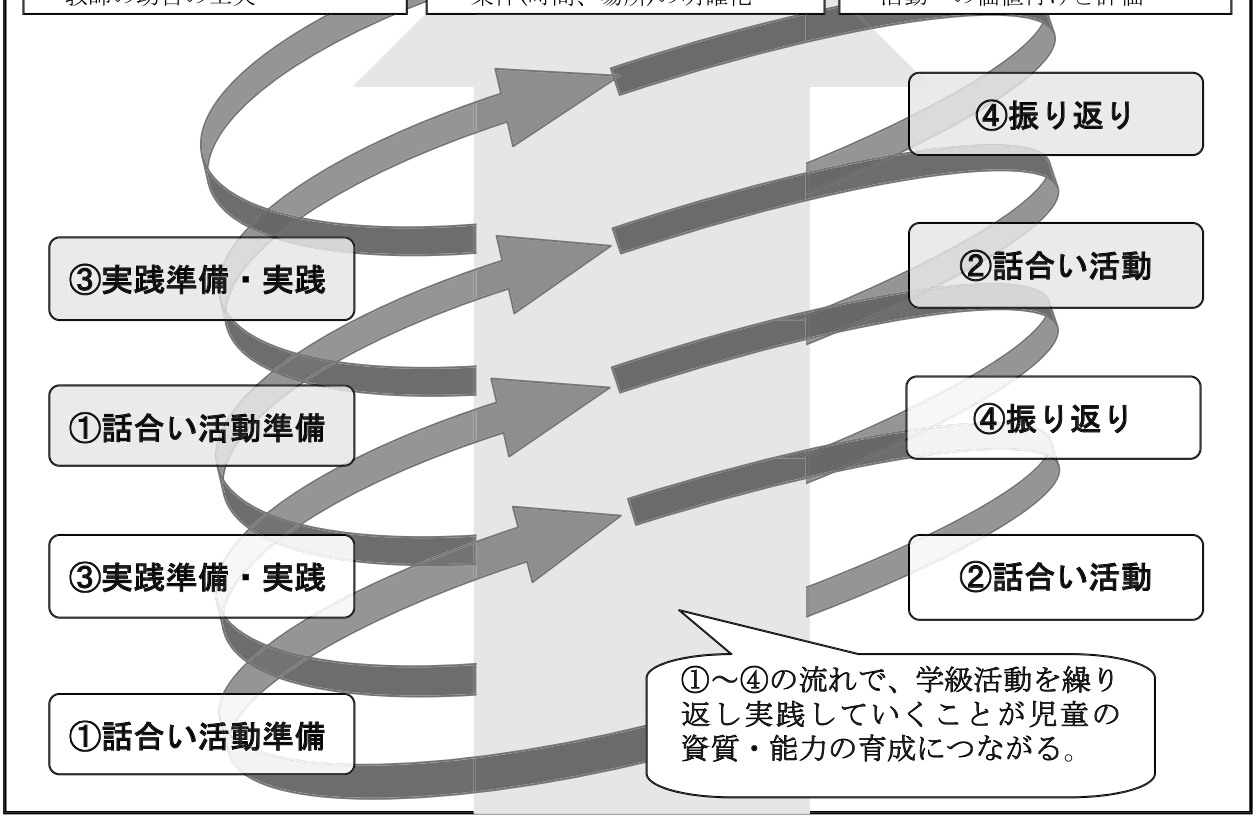
研究仮説
児童一人一人に、共同の活動目標や活動の見通しをもたせるとともに、役割意識を高める指導の工夫を行うことによって、**よりよい生活を目指し、協同して取り組む児童**が育つであろう。

研究の視点と手だて

視点１ 共同の目標をもたせる
・学級目標の掲示
・活動目標の共通理解
・議題箱、議題板の設置
・教師の助言の工夫

視点２ 活動の見通しをもたせる
・話合いのシミュレーション
・学級会コーナーの設置
・学級会カードの活用
・条件(時間、場所)の明確化

視点３ 役割意識を高める
・学級会グッズの工夫
・計画委員会の輪番制
・全員での役割分担
・活動への価値付けと評価



Ⅲ　研究仮説と視点、研究方法

１　研究仮説

児童一人一人に、共同の活動目標や活動の見通しをもたせるとともに、役割意識を高める指導の工夫を行うことによって、**よりよい生活を目指し、協同して取り組む児童**が育つであろう。

２　仮説を検証するための視点

（１）　共同の目標をもたせる

協同して取り組む児童には、自分たちの課題を自分たちで見いだそうとする姿がみられる。よりよい生活を築くためには、児童が学級や学校の生活の中から課題を見いだし、その課題を学級の児童全員で共有し､活動目標を設定することが必要である｡そのためには、話合い活動準備から実践の振り返りまでの一連の活動を貫く活動目標を設定し、一人一人の児童が目標について常に意識することにより、児童の課題解決への意識、活動への意欲を高める。一人一人の児童の意欲が高まることにより、学級集団の課題解決への意欲が高まり、協同して取り組む児童が育つであろうと考えた。

（２）　活動の見通しをもたせる

協同して取り組む児童には、見通しをもって活動に取り組む姿がみられる。何について話し合うのか、何をすべきなのかなどを全員が共通理解し、協力して主体的に活動に取り組むことが必要である。全員が活動目標を意識し、同じ方向を向いて話し合うことができるようにするためには、話合い活動準備、話合い活動、実践準備・実践、振り返りのそれぞれの場面において活動の見通しをもたせる必要があると考えた。

（３）　役割意識を高める

協同して取り組む児童には、自己の役割を理解し、学級のために進んで働こうとする姿が見られる。話合い活動において自分の意見を安心して言えたり、司会グループを助けたりする学級の雰囲気を培うことが大切である。そのためには、一人一人の児童が自分の役割を意識して話合いに参加する必要があると考えた。また、実践準備・実践の場面においても、自分の役割や友達の役割を意識することで、協同して取り組む児童が育つであろうと考えた。

３　研究方法

（１）　調査研究

ア　調査方法・・・質問紙による

イ　調査対象・・・研究員所属都内公立小学校８校の児童

（２）　実践研究

ア　学級活動「（１）学級や学校の生活づくり」における検証授業

Ａ　話合い活動

Ｂ　話合い活動の実践

Ⅳ　研究内容

１　調査研究

(1) 調査目的

①　研究の仮説と視点を設定するために、児童の学級活動に関する意識について実態把握を行う。

②　児童の実態を把握し、適切な指導の手だてを設定する。

(2) 調査対象

研究員の所属する都内公立小学校８校　全１２９学級　回答総数　３，９９９人

調査対象学年	調査を実施した学級数
都内公立小学校第１学年	２３学級
都内公立小学校第２学年	２１学級
都内公立小学校第３学年	２２学級
都内公立小学校第４学年	１９学級
都内公立小学校第５学年	２１学級
都内公立小学校第６学年	２１学級

(3) 調査時期

平成２４年９月

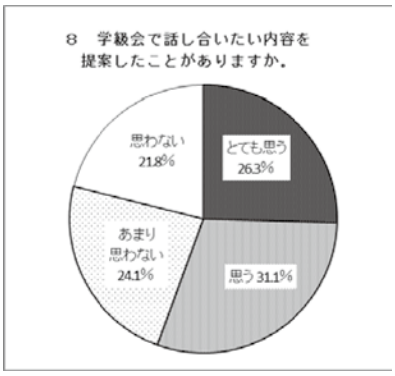
(4) 調査結果

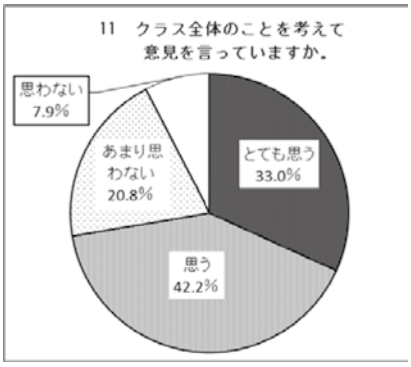
	質問	とても思う	思う	あまり思わない	思わない
1	クラスの友達といっしょに活動するのは好きですか。	60.5%	28.9%	4.6%	1.8%
2	みんなが楽しいと自分も楽しいですか。	58.1%	33.3%	8.4%	2.3%
3	学級会は好きですか。	46.2%	38.5%	12.7%	5.5%
4	クラスをよりよくしたいと思いますか。	66.6%	29.4%	7.4%	1.9%
5	学級会の準備をしていますか。	24.8%	32.8%	17.7%	21.7%
6	学級会の準備は大切だと思いますか。	43.5%	31.1%	7.8%	13.7%
7	学級会で話し合う内容を理解していますか。	46.5%	36.8%	7.3%	10.2%
8	学級会で話し合いたい内容を提案したことがありますか。	26.3%	31.1%	24.1%	21.8%
9	自分の意見をもって、話し合いに参加していますか。	42.0%	37.1%	17.5%	5.9%
10	すすんで意見を言っていますか。	34.4%	34.3%	25.5%	11.4%
11	クラス全体のことを考えて意見を言っていますか。	33.0%	42.2%	20.8%	7.9%
12	自分の考えや思いを安心して発言していますか。	36.6%	37.1%	23.3%	8.2%
13	友達の考えを聞くのは好きですか。	50.7%	37.4%	10.6%	3.7%
14	司会グループになるのは楽しみですか。	42.5%	27.4%	18.0%	16.7%
15	司会グループに協力していますか。	35.5%	40.1%	15.8%	11.7%
16	友達のよいところやがんばりを探していますか。	41.7%	41.4%	14.7%	5.6%
17	学級会で決めた役割を果たしていますか。	46.2%	39.5%	12.5%	5.5%
18	学級会で決めたことにすすんで参加していますか。	47.5%	38.8%	11.8%	5.1%
19	学級目標を意識して、生活していますか。	39.6%	42.3%	15.0%	4.5%

(5) 調査結果の分析

調査の結果を仮説検証の視点に沿って考察する。

〈視点１　共同の目標をもたせる〉



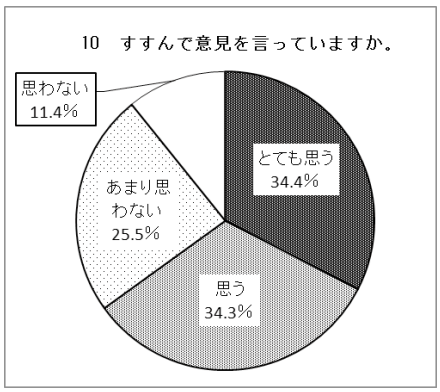


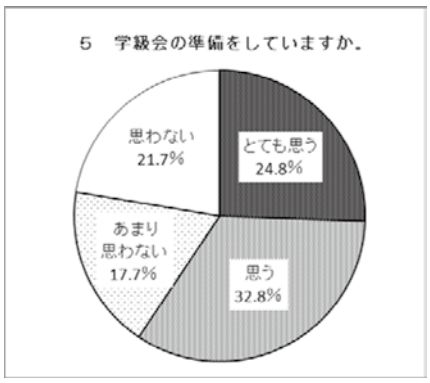
「学級会で話し合いたい内容を提案したことがありますか。」の項目では、否定的な回答（あまり思わない・思わない）が、半数近くであった。その理由として「どのような議題を出してよいか､分からない。」と挙げている児童が多く､日常の学級や学校の生活の中で、課題を見付けることが難しいと感じていることが分かる。

また、「クラス全体のことを考えて意見を言っていますか。」の項目では、３割近い児童が否定的な回答をしている。学級全体で、何を大切にして活動すべきなのかを、理解して取り組んでいるとは言えない実態が浮かび上がってきた。

これらの実態から、学級や学校の生活の中から課題を見いだす力を高めることが必要であると考えた。また、学級の児童全員が同じ方向を見据えながら協同して活動に取り組むためには、活動全体を貫く「共同の目標をもたせる」とともに、一人一人の児童が共同の目標を常に意識することが必要であると考えた。

〈視点２　活動の見通しをもたせる〉



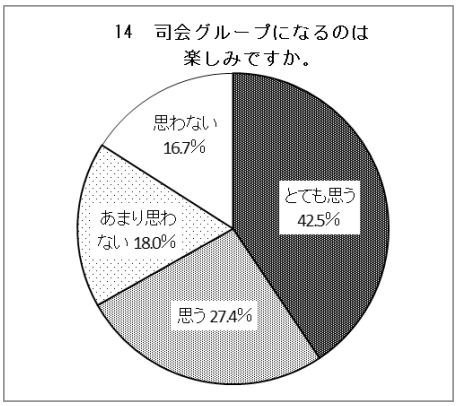


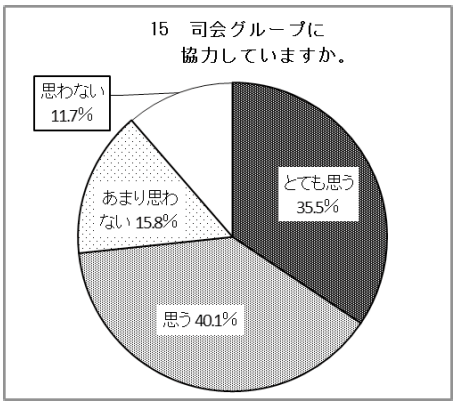
「すすんで意見を言っていますか。」の項目では、３割を超える児童が否定的な回答をしている。これらの児童は、「思いつかない。」「不安だから。」などを理由として挙げている。また、「学級会の準備をしていますか。」の項目では、４割の児童が「準備をしていない。」もしくは「あまりしていない。」と否定的な回答している。

この二つの項目から、学級会の準備が不足していたり、学級全体に議題の決定、提案理由、話合いの柱の決定などの共通理解を図れたりしていないから、自信をもって意見を言うことができない児童がいると捉えることができる。学級会では、今何について話

し合っているのか、実践活動の場面では、今何をしたらよいのかが明確になるような、「活動の見通しをもたせる」ことが必要であると考えた。

〈視点３　役割意識を高める〉





「司会グループになるのは楽しみですか。」の項目についてみると、３割を超える児童が「楽しみではない・あまり楽しみではない。」と否定的な回答をしている。その理由として、「難しいから。」「間違えたら話合いが止まってしまう。」ということを挙げており、司会グループになることへの不安があることが分かる。また、「司会グループに協力していますか。」の項目では、３割弱の児童が、「協力していない・あまりしていない。」と回答しており、フロア側の話合いへの参加意識の低さが、少なからず司会グループへの不安につながってるのではないかと捉えた。

司会グループとなることに、学級の誰もが期待感をもてるようにしたい。そのために、フロアの児童には「司会グループを助け、建設的な意見を言う」という意識をもたせること、司会グループは話合いを進めていくという使命感をもち学級会に臨むこと、すなわち、「役割意識を高める」ことが必要であると考えた。

２　実践研究（検証授業）

(1) 学級活動（１）「学級や学校の生活づくり」における検証授業

話合い活動

○　７月　４日（火）　第１学年　議題「１年４組みんなで遊ぼう会をしよう」
○　９月２４日（月）　第２学年
　　議題「○○さんと仲良くなれる〈ドッヂビーおにごっこ〉のルールを決めよう」
○１０月　４日（火）　第４学年　議題「お楽しみパーティーをひらこう」
○１１月　２日（金）　第６学年　議題「５年生に自分たちの思いを伝える会の計画を立てよう」
○１１月２０日（火）　第６学年　議題「○○さんにためにできることを考えよう」
○１２月１１日（火）　第６学年　議題「手配り新聞の記事内容、発行方法を決めよう」
○　１月２１日（月）　第５学年　議題「下級生のお手本になる」を１００％に近づけよう
　　みんなで取り組むことを決める」

(2) 学級活動（２）「日常の生活や学習への適応および健康安全」における検証授業

９月　研究員全学級で、話合い活動の見直しオリエンテーションを行った。

Ⅴ　仮説検証の視点と手だて、その検証授業と実践例

１　仮説検証の視点と手だて

仮説検証の視点を受けて、次のような手だてを設定し、その有効性を検証するために、検証授業を行うこととした。

【手だての一覧表】

		視点① 共同の目標をもたせる	視点② 活動の見通しをもたせる	視点③ 役割意識を高める
常時		活動目標の設定及び意識化（p10）		
		学級目標の掲示（p10）	学級会コーナーの設置（p14）	
		議題箱・議題板の設置（p11）	行事予定の提示（p15）	話合いのルール・マナーの確立
		議題案カードの工夫（p11）		計画委員会の輪番制
話合い活動準備	計画委員会		事前アンケートの活用	
		話合いのシミュレーション（話合いの進め方・板書計画・話型などについての指導）（p18）		
			学級会グッズの工夫	
	学級全体	朝の会・帰りの会の有効活用（提案理由・議題決定・話合いの柱などの共有化）（p15）		
		集団決定の指導		発言者としての役割の意識（p18）
				学級会カードの工夫（p19）
話合い活動	計画委員会		条件（時間・場所）の明確化（p14）	
		活動目標の共通理解	話合いの内容が分かる板書の工夫（p14）	話合いの場の工夫
	学級全体	学級会カードの活用（p10）	時間配分表の提示（p14）	ハンドサイン・名札の活用（p19）
				全員での役割分担（p18）
				話合い後の自己評価及び相互評価（p18）
		教師の助言の工夫　（活動への価値付けと評価）（p11）		
実践準備・実践 振り返り	学級全体	学級目標の達成度の可視化（p11）	学級会カードへの教師の指導（p15）	
		活動中及び実践終了時の教師の助言の工夫　活動への価値付けと評価（p19）		
		活動目標を意識した振り返り　（p10・19）		

※年度初めによりよい学級会を行えるように学級会オリエンテーションを開く。

学級活動（１）「学級や学校の生活づくり」における検証授業と実践

視点１　共同の目標をもたせる

【検証授業】「○○さんとなかよくなれる『ドッヂビーおにごっこ』のルールをきめよう」
（2 年生）

【活動目標】　みんななかよく○○さんをかんげいしよう
【議題】　「ドッヂビーおにごっこのルールをきめよう」
【提案理由】　みんなでなかよくあそんで、新しいクラスメイトの○○さんもなかよくなれるといいから

【話合いの柱】
ドッヂビーおにごっこのルールをきめる。

本活動では、視点１「共同の目標をもたせる」に重点を置き、手だての有効性について検証した。

【活動の概要】

転入生の歓迎にふさわしい遊びのルールの工夫を決定する話合いを行った。低学年は司会入門期のため、教師が議題の決め方、計画委員会の準備などを指導しながら進めた。児童一人一人が他人の考えを聞き、受けとめながら集団決定できるように手だてを工夫した。視点の中で、特に「共同の目標に向かって協力する」経験を味わえるようにした。

２学期の学級目標「きょう力、あきらめない、話をよく聞く」を、話合いの中でもめあてとした。さらに事前の心構えや前時の振り返りで出された課題から本時の話合いのめあてを設定して話合いを行った。ルールは、六つの意見の中から二つに絞ることができ、折衷案を出すというまとめ方を経験した。

学級会カードには、活動目標について振り返る欄を設けた。全体の目標と個人の目標の両方を振り返ることで「共同の目標を意識する」ことができた。また、実践後の振り返りでも、活動目標を振り返る欄を設け、活動終了時まで目標を意識することを持続させた結果、目標を意識して活動する様子が顕著に見られた。

視点１	共同の目標をもたせるための仮説検証の視点と手だて
常時	**○活動目標の設定及び意識化** **○学級目標の掲示** **・学級目標を常に意識できる掲示（検証①）** **○議題箱、議題板の設置** **・議題案の整理（事例③）** **○議題案カードの工夫** **・議題の質を高める議題案カード（事例②）**

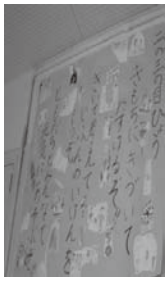
事前の指導の手だて	計画委員会	○話合いのシミュレーション（話型についての指導） **・提案理由が反映された議題の設定（検証②）** **・学級会カードの作成（検証③）** ・司会台本の作成 ・学級活動（２）における、話合いの流れや役割の確認
	学級全体	○朝の会、帰りの会の有効活用（提案理由、議題決定、話合いの柱などの共有化） ・話合いのめあて、活動目標の確認 **・ルールの候補を決めるアンケートの実施（事例②）** ・計画委員会からの連絡 ・学級会カードに自分の考えと話合いのめあての記入
話合いの指導の手だて	計画委員会	○集団決定の指導 ・共同の目標に沿った話合いの方向確認 ・賛成意見の人数の把握
	学級全体	○活動目標の共通理解 **・活動目標が書かれた板書や学級会カード（検証②）** ○学級会カードの活用 **・話合いのめあてと振り返りの記入（検証③）** ○教師の助言の工夫（活動への価値付けと評価） ・共同の目標を意識した発言者への称賛 ・決定事項への価値付けとなる助言
実践・事後	学級全体	○学級目標達成度の可視化 **・学級目標の達成度が分かる掲示物（検証①・事例①）** ・活動後の達成度の変化の確認 ○活動目標を意識した振り返り **・活動目標や提案理由、話合いの目標を意識した振り返りへの称賛（事例④）** ・学級目標を意識した発言や活動への称賛 ・活動目標や提案理由を意識した発言や活動への称賛 ・振り返りの交流による共同の目標達成への意識化 ○活動中及び実践終了時の教師の助言の工夫　活動への価値付けと評価 ・目標にふれた活動終了時の助言 ・活動への価値付けと評価となる助言

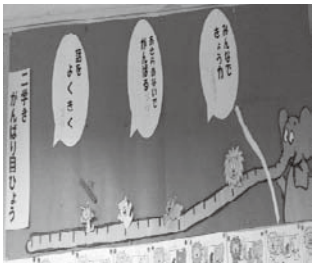
仮説検証の視点と手だて及び児童の変容

検証①　学級目標の掲示

学級目標は、常に意識できるように掲示した。内容は学級で決定し、児童のデザインや工夫、協力のできる形で作成した。

２学期の初めに改めて設定し、重点とする目標の具体化を行った。

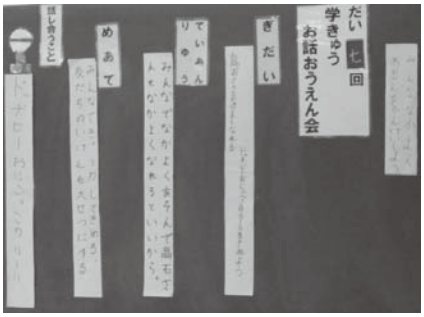




教室前面などに掲示し、学習や生活、学級活動でも常に意識することができるようにした。

検証②　活動目標の設定及び意識化

活動目標を示し、提案理由は、なぜそれを議題にしたのかが明確になるようにした。議題は、そのために「１時間の中で話し合いたいこと、集団決定したいこと」とした。

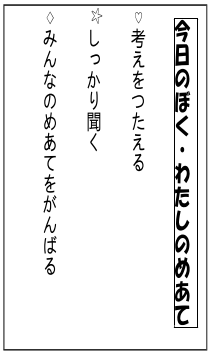


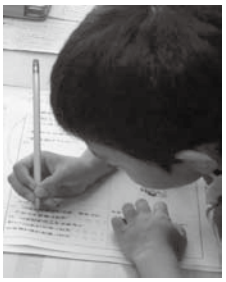
話合いの中で、活動目標や提案理由に沿って、意見を出したり、決定したりすることができるようになった。

検証③　学級会カードの活用

めあてについての自己評価をした。検証授業では２年生であるため、最も頑張りたいものを選んで丸で囲むようにした。

高学年では、記述式で書いて振り返った。

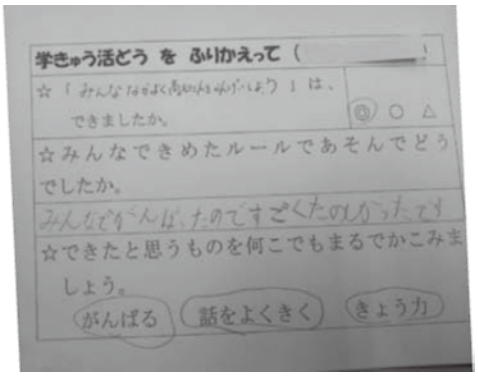

今日のぼく・わたしのめあて
♡考えをつたえる
☆しっかり聞く
◇みんなのめあてをがんばる



学級会カードに書くことで、話合いでのめあてへの意識が高まった。

検証④　活動目標を意識した振り返り

活動後の振り返りカードには、学級目標や活動目標に対する振り返り、話合いで決定したことについての実践での満足度を確認する項目を入れた。

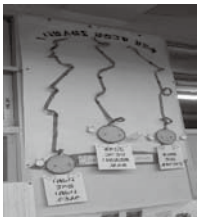

学きゅう活どう を ふりかえって（　　）
☆「みんなはなよくあいさつしよう」は、できましたか。
◎ ○ △
☆みんなできめたルールであそんでどうでしたか。
みんなでがんばったのですごくたのしかったです
☆できたと思うものを何こでもまるでかこみましょう。
がんばる　話をよくきく　きょう力

この活動が、「２学期のがんばり目ひょう」の実現にも通じていることを意識することができた。

検証授業以外で実践した視点と手だて及び児童の変容の事例

事例①　学級目標の達成度の可視化

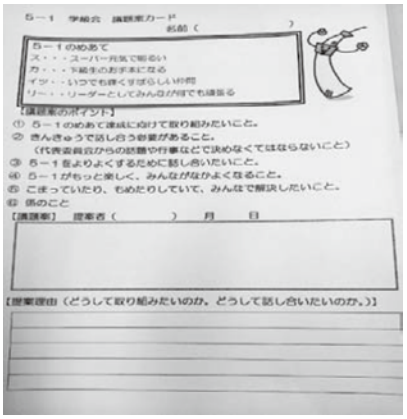
学級目標の達成度が分かる掲示で、目標の達成度が児童に視覚的に分かるようにした。



達成度が変化することで、どの項目に努力が必要か、また、集団としての高まりが分かり、共同の目標を意識しやすくなった。

事例②　議題案カード

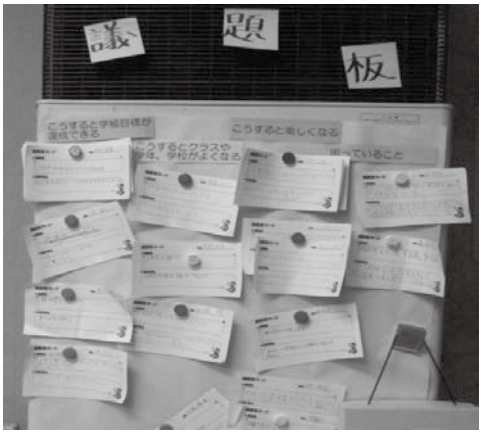
議題案カードに、学級目標と議題案のポイントを入れ、学級目標達成に向けた議題を出すよう促した。



なぜこの議題について話し合うのかを意識して議題を出すようになり、議題の質が高まってきた。このカードを基に、活動目標の設定も行うことができた。

事例③　議題箱・議題板の設置

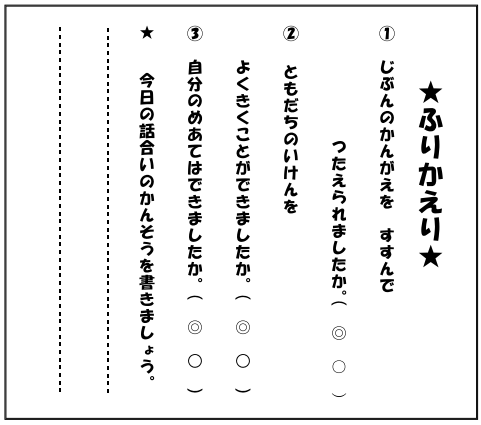
議題案を整理して掲示し、出された議題案が、学級目標を達成させるものかであるか分かるようにした。



このように整理して掲示することで、学級目標達成に向けた議題案を出せるようになり、共同の目標を意識した話合いができるようになった。

事例④　目標を意識した教師の助言

個人の目標、学級全体の目標の両方について話合いを振り返る項目を入れた。



共同の目標についてふれた振り返りは取り上げ、教師の助言で称賛した。話合いの価値付けと新たな目標設定ができた。

視点２活動の見通しをもたせる

【検証授業】「お楽しみパーティーを開こう」（４年生）
【活動目標】お楽しみパーティーを成功させて、クラスをもっと明るく、楽しく、仲よくさせよう。
【議　　題】「お楽しみパーティーを開こう」
【提案理由】みんなでパーティーをすればクラスがもっと明るく、楽しく、仲よくなると思うから

【話合いの柱】
① 遊びの内容を決めよう
② 出し物を決めよう

本活動では、視点２「活動の見通しをもたせる」に重点を置き、手だての有効性について検証した。

【活動の概要】

２学期の初めに学級会の改善策を話し合い、活動の内容･方法を刷新した。

本議題は、学級目標の中で達成度が低かった「仲よく」の項目について達成度を向上させるために、お楽しみ会を開こうという理由で提案された。「学級目標を見直そう」「係を決め直そう」に続き、３回目の話合い活動となる。

「話合いの柱①」では、遊びの内容について話し合った。ここでは学級目標・活動目標を意識した発言が出され、自分のやりたいことと、クラスでやるべきことの区別ができていた。

「話合いの柱②」では、出し物を行う際のグループを決め、その内容を小グループで話し合った。決定した内容に従って自分たちで役割分担をし、会の趣旨に合う出し物を考えることができた。

実践では、初めの言葉の際に活動目標を発表し、皆が楽しめるようにしようと、学級全体に呼びかける姿が見られた。また、活動全体を通した振り返りでは、担当した計画委員や実行委員を称賛する発言や記述が多く見られ､学級全体として大きな達成感を味わうことができた。

視点２		「活動の見通しをもたせる」ための仮説検証の視点と手だて
常時		○学級会コーナーの設置 ・学級掲示板の整備（輪番表、学級会の予定、議題、活動目標、学級会カード、話合いの条件、計画委員会進捗状況などの掲示） **・行事予定の掲示(事例②)**
事前指導の手だて	計画委員会	○話合いのシミュレーション **・計画委員会の活動計画作成（事例①）** **・学級全員で議題決定(事例③)** **・学級全員で話合いの柱を決定（事例③）** ・司会台本の活用

		○学級会グッズの工夫 ・学級目標達成度の可視化 ・次の議題の可視化（議題板の設置） ・学級会カードの活用 **○話合いのシミュレーション** ・話型についての指導 ・フロアー（発言者）としての心構えの指導 **○朝の会、帰りの会の有効活用(事例③)** ・議題や話合いの柱は朝の会や帰りの会の時間を使い、学級全体で決定
話合いの指導の手だて	計画委員会	**○条件（時間・場所等）の明確化（検証③）** ・学級会掲示板や板書にも自治範囲を超える内容や決まっていて話し合う余地がないことを明示 **○話合いの内容が分かる板書の工夫** ・活動目標や提案理由を意識付けるための掲示 ・話し方（話型）カードの活用 **○時間配分表の提示** **・板書の中に残り時間を掲示(検証②)** **○教師の助言の工夫** ・話合い直前に教師の話の時間を設定 ・活動目標や提案理由を意識した発言の称賛 ・進行上、手本となる司会などの発言等の称賛
実践及び振り返りの手だて	学級全体	**○実践での役割の見通しをもたせる工夫** ・全員での役割分担 **○活動目標を意識して実践に臨む工夫** ・プログラムにも活動目標を明示し意識化 **○活動への価値付けと評価** ・自他について、そのよさを探せるよう意識させる振り返りカードの構成
実践・事後の指導の手だて	学級全体	**○実践での役割を意識化させる工夫** ・活動目標の共有化（事例③） ・実践活動における全員での役割分担 ・事前の準備時間の確保 **○事後の振り返りの工夫** ・計画から実践までの流れが見えるようカード化 **○教師の活動への価値付けと評価** ・学級会カードや事後の振り返りカードへの教師の指導・助言・称賛 ・役割を果たした時の称賛

仮説検証の視点と手だて及び児童の変容

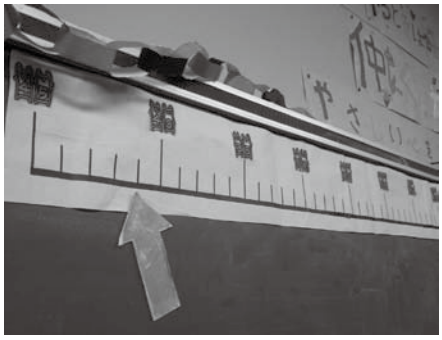
検証①　学級会コーナーの設置

学級会の議題が決まるとすぐに、学級掲示板に活動目標・提案理由を掲示するようにした。話合い活動中には、黒板にも掲示し、常に意識できるようにした。

発言の際に学級目標や活動目標についてふれる児童が明らかに増えた。また、論点がずれる回数が減り、ずれても自分たちで修正できるようになった。

検証②　時間配分表の提示

児童から、時間内に集団決定できないことが問題点の一つとして挙げられた。時間配分表の提示により、司会グループもフロアの児童も視覚的に残り時間を意識できるように工夫した。



常に視界に時間経過が表示されることで、フロアの児童も見通しをもち進行の状況に気を付けるようになった。

検証③　話合いの条件明示

すでに決まっていることや児童の自治的範囲を超える内容については、あらかじめ明記しておくことで、話合いをスムーズに進められるようにした。

話し合う必要がないものが明確になったため、論点がずれることが大幅に減少した。また、あらかじめ対策も考えられるようになったため、決められた枠の中でより多くのアイデアを出そうと思考にも深まりが見られた。

検証④　話合いの内容が分かる板書の工夫

意見を短冊に書いたり、短冊の色を変えたりするなど、今何を話しているのか，内容が視覚的に整理できるようにした。

発言の理由も簡潔に板書することで、児童の思いが伝わり、他の意見との統合などが容易にできるようになった。

検証授業以外で実践した視点と手だて及び児童の変容の事例

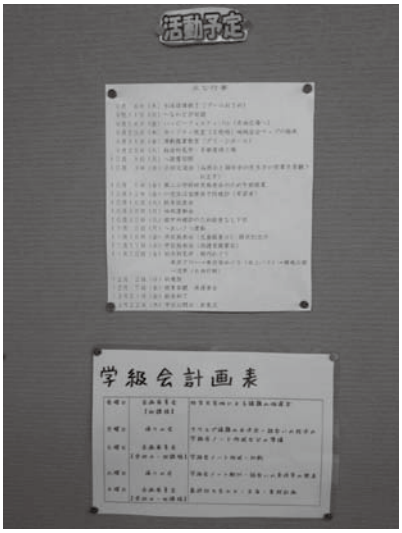
事例①　話合いのシミュレーション

計画委員会では，想定される発言や提案内容について、休み時間などを使って何度も話し合い、対応を考えられるようにした。フロアの児童は、話合い活動前に学級会カードを提出し、教師の助言を受けてから、学級会に参加できるようにした。

フロアの児童の考えを前もって確認することで、話合いの流れを想定しやすくなった。話合いの流れを想定しておくことで、司会が進行に詰まる場面が減少した。フロアの児童も、自信をもって発言するようになった。

事例②　行事予定の掲示

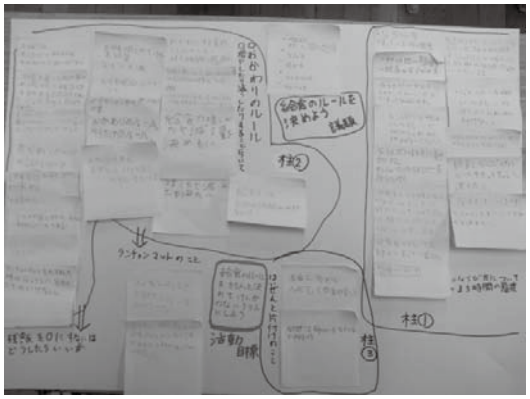
学校行事予定表を掲示することで、学級会の議題案を提案したり、議題を決定したりするときにも、学校全体の動きを見通せるようにした。



行事予定を通して、学年や学校の動きを見通すことができ、議題の時機を逃すことがなく、議題の質も向上した。

事例③　朝の会・帰りの会の有効活用・クラス全員で議題決定

朝の会・帰りの会を使って、次の学級会で話し合う議題やその柱を学級の児童全員で決定するようにした。



司会グループが選んだいくつかの議題や話合いの柱の中から、いま最も必要だと思うものを選ぶようにした。あらかじめ次の学級会で何について話し合うのか、何について決めるのかが分かるため、実践への見通しをもちやすくなり、話合い参加への意欲が高まった。

視点３役割意識を高める

【検証授業】「５年生に自分たちの思いを伝える会の計画を立てよう」（６年生）

【活動目標】今までの活動のよさを振り返りながら、学級目標の「責任を考えること」を達成させ、さらに松丘小学校をよりよくしよう。

【議　　題】５年生に自分たちの思いを伝える会の計画を立てよう

【提案理由】６年生として自分たちが行ってきたことを５年生に伝えて、大事なことを引き継いでいきたいから

【話合いの柱】
①どのような思い（気持ち）を伝えたいか話し合う。
②柱１で決めた「伝えたい気持ち」をどのように形にしていくかについて話し合う。

本授業では、視点３「役割意識を高める」に重点を置き、手だての有効性について検証した。

【活動の概要】

議題は、児童の「自分たちがやってきたことを５年生に引き継いで学校をよりよくしたい」という純粋な気持ちから出された。この議題に決定した理由は、①自分たちが今まで行ってきたことに自信をもつことができる②６年生として学校をよりよくしていくための議題であり、自分にとっても５年生にとってもよりよい生活づくりにつながる③どの児童も自分が関わることになり、その中で協同し合う場面が多く出てくることが想定される④話し合いたいという児童の要求が大きい⑤今後の交流にもつなげることができ、その場限りではない児童の心の交流が生まれるきっかけにもなると考えたからである。

「話合いの柱①」では、今まで自分達の学級で積み重ねてきた活動のよさを振り返り、具体例・具体物を用いながら５年生に伝えたい「思い」について話し合った。互いの意見をすり合わせ、「達成感」「団結の大切さ」「責任をもつこと」などの「思い」を５年生に伝えることに決定することができた。

「話合いの柱②」では「話合いの柱①」で出された一人一人の思いを大事にしながら、伝える方法について話し合った。児童からは、「劇で伝えたい」「スクリーンで表現したい」などの意見が出された。

実践では、５年生に自分たちの思いを伝えられ、松丘小をよりよくできたという満足感を得ることができた。

視点３	「役割意識を高める」ための仮説検証の視点と手だて
常時	**○活動目標の設定及び意識化** ・役割を意識するための活動目標の常時掲示 **○学級会コーナーの設置（事例①）** ・学級会コーナー（輪番表・学級会の予定・議題・活動目標等の掲示等）の設置 ・学級目標や議題の可視化（議題板の設置） **○話合いのルール・マナーの確立** ・学級活動のオリエンテーション・計画委員の役割や発言者としての役割の意識化 **○計画委員会の輪番制** ・全ての児童に経験をさせる工夫

話合い活動準備	計画委員会	○事前アンケートの工夫 ・発言者として、あらかじめ意見をもつための工夫 ○話合いのシミュレーション（検証①） ・事前の打ち合わせ ・計画委員会の活動計画作成や司会台本、話型カードの活用 ○学級会グッズの工夫 ・板書が一目でわかるようなグッズの活用
	学級全体	○朝の会・帰りの会の有効活用 ・提案理由・議題決定・話合いの柱などの共有化 ○発言者としての役割の意識化（検証②） ・活動目標や提案理由に沿った意見や説得力のある意見（具体物や経験を取り入れた話し方） ・集団決定をしていくための意見（友達に共感する意見・友達の意見を聞いての変更・複数の意見の統合など） ○学級会カードの工夫 ・自分の考えが事前に書けるようなカードの工夫
話合い活動	学級全体	○話合いの場の工夫 ・コの字での話合いや計画委員会の場所の工夫 ・小グループでの話合いの活用 ○ハンドサイン、名札の活用（事例②） ・自分と友だちの意見の相違確認 ○全員での役割分担（検証③） ・全員が活動に主体的にかかわる工夫 ○話合い後の自己評価及び他己評価（検証④） ・活動目標や個人のめあて及び、自分の役割について振り返ることのできるカードの活用 ○教師の助言の工夫 ・活動目標や提案理由を意識した発言の称賛
実践準備・実践・振り返り	学級全体	○学級会カードへの教師の指導 ・教師の指導・助言・称賛 ・役割を果たした時の称賛 ○活動中及び実践終了時の教師の助言の工夫　（事例③） ・活動目標の共有化 ・実践活動における全員での役割分担 ・事前の準備時間の確保 ○活動目標を意識した振り返り（事例④） ・振り返りカードに役割について振り返る欄を設定 ・成長したことを自負や今後に生かすことや今後の改善点の確認

仮説検証の視点と手だて及び児童の変容

検証①　話合いのシミュレーション

計画委員に対して、学級会の見通しをもち、具体的な話合いの場面を想定しながら打ち合わせをするように指導した。

計画委員が自己の役割を理解し、話合いに向けて自主的に、準備に取り組むようになった。また、話合いもスムーズに進行するようになった。

検証②　発言者としての役割の意識

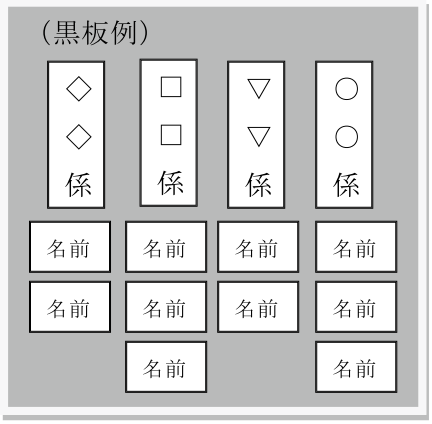
話型カードを配布するとともに、話合いのルールやマナーについて考えさせ、発言者として、どのように役割を果たせばよいのかについて指導した。

さらに、発言者として説得力のある発言ができるよう、写真や旗などの具体物を用いて発言するよう促した。

発言者としての役割が理解でき、安心して発言することができるようになった。

検証③　全員での役割分担

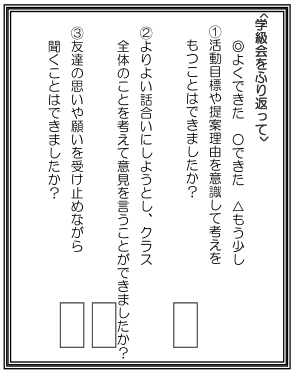
男女混合、一人一役以上の役割を割り当て、活動に主体的にかかわるようにした。



役割意識が高まり、自己の役割を自発的に果たすようになった。友達とかかわりながら、工夫して活動していくことができるようになった。

検証④　話合い後の自己評価、相互評価

学級会カードに、活動目標や個人のめあてを振り返る欄を設け、計画委員や発言者としての役割について振り返るようにした。



自己の役割を意識しながら話合いに臨むようになり、話合い全体の高まりが見られた。

検証授業以外で実践した視点と手だて及び児童の変容の事例

事例①　学級会コーナーの設置

学級の児童全員が、何について話し合うのかが分かるように、議題、活動目標、提案理由、話合いの柱等を掲示し、自己の役割が分かるように可視化した。

学級会コーナーを日常的に見ることで、事前に限らず、事後の活動まで自分の役割を意識するようになった。

事例②　ハンドサイン、名札の活用

発言者が友達の意見を聞き、それに対して、自分の考えはどうであるか意思表示するためにようハンドサインを用いた。また友達の考えが分かるよう、意見に名札を貼るようにした。

友達と自分の考えの違いを把握し、発言者として自分の主張をするという役割が果たせるようになった。

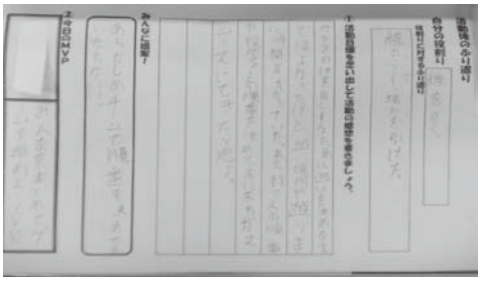
事例③　活動中及び実践終了時の教師の助言の工夫

実践の準備や実践の場において、活動目標を掲示し、常に意識化できるようにした。

自己の役割に取り組む際に、学級会で話し合った内容を生かしながら友達と活動の工夫をすることができた。

事例④　活動目標を意識した振り返り

実践の事後にも振り返りカードを活用し、役割について振り返れるようにした。



自分や友達、学級や学年が成長したことを自負することができた。また、振り返りから、改善策を見いだすことができるようになった。次の活動の意欲へと繋げることができた。

２　学級活動（２）「日常の生活や学習への適応及び健康安全」における検証授業と実践例
～学級活動（２）を活用した、話合い活動の見直しオリエンテーション～

学級活動（２）は、集団での話合い活動を通して、個人の目標を自己決定し、個人で実践する児童の自主的、実践的な活動を特質としている。

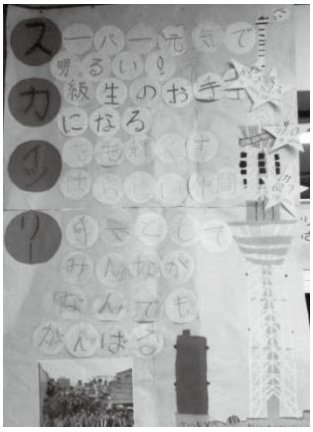
本研究では、研究主題を「よりよい生活を目指し、『協同』して取り組む児童の育成」とし、学級活動（１）の話合い活動を中心に研究を進めてきた。しかし、児童の学級活動の経験の差や児童の発達段階により、話合いの質に差が生じることは否めない。

「よりよい生活を目指す」ということは、学級や学校の生活の中から、児童が自ら課題を見いだし、学級の児童全員で解決の方法を考え、改善に向かって協力して実践していくということである。しかし、７月までの話合い活動を振り返ると、話し合うことが目的のようになってしまったり、議題が「楽しい集会を行うこと」に偏ってしまったり、発言する児童に偏りがあったりする様子が見られた。

議題の偏りについては、児童の発達段階や活動経験により議題の質が高まっていくことに期待したいが、児童が自分達の力で議題の偏りに気付くことは難しい。そこには、教師の適切な指導が必要である。これらのことから、学級の児童全員で、議題板、議題カードの活用方法や、話合いの柱の決め方などを見直す活動を設定することとした。

『協同』して活動に取り組むためには、学級の児童全員が、目標や活動の一連の流れをしっかりと共通理解することが不可欠である。集会を行うときにも、「何のために集会を行うのか」という目的意識や「そのために何について話し合い、何を決定するのか」という方法を児童全員がしっかり共有していなければ、ねらいに基づいた価値ある集会活動とはなりにくい。そこで、「①話合い活動準備、②話合い活動、③実践準備・実践、④振り返り」までを一連の活動の流れとし、活動目標、活動名、話合い活動の議題名、提案理由などを明確にして、常に活動目標に立ち返って取り組めるようにしたいと考えた。

これらのことから本活動では、各学級の児童の発達段階及び学級の実態に応じて、指導が必要なことについて焦点化し、９月に学級活動（２）で、「話合い活動の見直しオリエンテーション」を行い、改善を図ることにした。



（１）実践例（５年生）

①　学級目標　合い言葉【スカイツリー】

ス	：スーパー元気で明るい
カ	：下級生のお手本になる
イツ	：いつでも輝く素晴らしい仲間
リー	：リーダーとしてみんなが何でも頑張る

②　題材名

「スカイツリーの頂上を目指して、５－１みんなでどんどんアップしていこう大作戦！」

③　ねらい

○７月までの学級目標の達成度について振り返ることで、自分たちの力で学級をよりよくしていこうとする意欲を高め、個人として解決するための目標、方法、内容を決める。

○議題案の出し方、整理の仕方、話合いの柱の決め方などについて、全員で確認すること

で、すすんで学級をよりよくするための話合い活動や具体的な実践ができるようにする。

④　本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価と評価方法
導入	○7 月までの学級目標の達成度を示した掲示を見ることで、学級の実態と課題に気付く。	○７月末に、学級目標の達成度についてのアンケートをとる。 ○学級目標のそれぞれの項目に基づき、自分と学級の達成度について、１００％までの数値で自己評価させる。 ○学級全体の平均を出す。数字の部分を伏せた掲示を用意し、一つずつ児童に予想させながら、発表していく。	○予想と数字のギャップから、課題の重要性について理解している。（知・理）【観察】
展開	○数字から考えられる学級の課題と、解決方法について話し合う。 ○自分の思いをみんなの思いにするために、活動案と議題案の提案方法について理解し、実際にカードを書く。	○ワークシートにも達成度を示す。児童が学級の課題を捉えやすいようにし、自分の考えをしっかり書かせる。 ○自分自身の意識ですぐに改善できることと、学級全体で決めなくてはならないことを明確にさせる。	○課題の原因について理解し、解決の方法を考えてワークシートに書いている。（思・考・実）【ワークシート･観察】
終末	○ワークシートに本時の感想やこれから自分が頑張りたいことを決めて書く。 ○教師の話を聞く。	○数名の児童に発表させる。 ○頑張りたいことを具体的に書くことができた児童を称賛する。	○学級をよりよくしていこうという意欲をもち、自分ができることを考えている。（関・意・態）【ワークシート・観察】

⑤　その後の指導

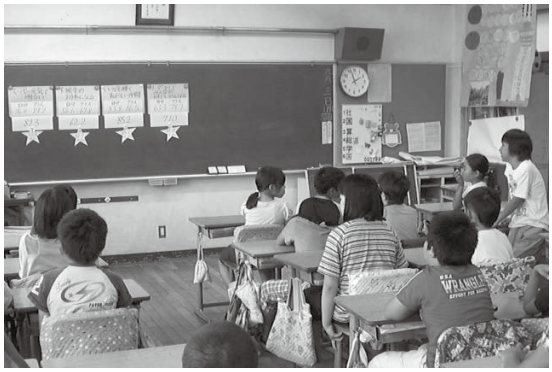
○議題案カードに、学級目標、活動目標を記入する欄を設け、常に目標を意識できるように工夫した。

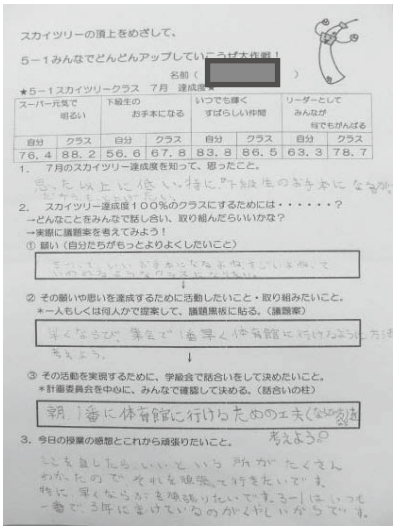
○活動目標を達成するために決めなくてはならないこと、話し合う必要があること、準備することなどを付箋に書いて掲示し、児童全員が共通理解できるようにした。

⑥　成果と変容

○これらの活動を行うことにより、児童が学級目標をより意識するようになり、議題案の内容に広がりが見られるようになった（例「学級のルールを見直そう」など学級の生活上の課題に直結しているものが増えてきた。）。

○活動目標を設定することで、「何のためにその活動をするのか」について、学級の児童全員で共通理解を図ることができた。このことにより、目的意識をもって話合いや準備、実践に参加する姿が見られるようになった。また、計画の段階から計画委員会の手助けをしようという雰囲気が高まった。




スカイツリーの頂上をめざして、
5－1みんなでどんどんアップしていこうぜ大作戦！
名前（ ）
★5－1スカイツリークラス　7月　達成度

スーパー元気で明るい		下級生のお手本になる		いつでも輝くすばらしい仲間		リーダーとしてみんなが何でもがんばる	
自分	クラス	自分	クラス	自分	クラス	自分	クラス
76. 4	88. 2	56. 6	67. 8	83. 8	86. 5	63. 3	78. 7

1.　7月のスカイツリー達成度を知って、思ったこと。
2.　スカイツリー達成度１００％のクラスにするためには・・・・・・？
→どんなことをみんなで話し合い、取り組んだらいいかな？
→実際に議題案を考えてみよう！
① 願い（自分たちがもっとよりよくしたいこと）
② その願いや思いを達成するために活動したいこと・取り組みたいこと。
＊一人もしくは何人かで提案して、議題黒板に貼る。（議題案）
③ その活動を実現するために、学級会で話合いをして決めたいこと。
＊計画委員会を中心に、みんなで確認して決める。（話合いの柱）
朝１番に体育館に行けるための工夫
3.　今日の授業の感想とこれから頑張りたいこと。

（２）他の学級のオリエンテーション

	各学級の課題	題材名	内　容	成果と変容
低学年	・これまでは司会などの役割を担任が行っていた。 ・議題の種類を増やしたい。	すてきな２年生になるために、レベルアップ！学級会	・活動の一連の流れを知り、学級会への意欲を高める。 ・議題の提案の仕方を知る。	・掲示している議題をよく見るようになった。 ・学級会までの流れが分かり、司会などの役割を行いたいという児童が増え、学級会への意欲が高まった。
	・協力して集団決定しようとする様子が見られない。 ・２学期から、児童に話合いの進行を任せたい。	司会グループが話合いを進める学級会をしよう	・話合いの進め方の掲示を見ながら、司会などの進め方や意見の出し方を確認し、話合い活動を行う。	・活動目標や話合いのめあてに従って話し合うことが分かった。 ・司会や記録の役割が分かり、児童が自分達で話合いを進めようとする意欲が高まった。
中学年	・みんなが意欲的に話合いに参加しているとは言えない面がある。 ・時間内に集団決定ができない。	学級会を見直そう	・１学期の話合い活動を振り返り、話合い活動を改善するための解決方法を話し合う。	・児童自らが、自分たちの話合いの課題に気付くことができた。 ・話合い活動を改善するための方法を自分達で考えて決めたことで、話合い活動が活発になった。
	・特定の児童の発言が目立ち、学級全員が参加する話合いになっていないことがある。	話合い活動パワーアップ大作戦	・互いの意見を十分に伝え合う話合い活動にするためには、どのようにしたらよいかを考える。	・ほぼ全員が自分の考えを発言するようになった。 ・授業の中での発言の仕方に気を付けるようになった。(特に反対意見の言い方)
高学年	・学級の課題を見付け、議題案を考えて提案する児童が少ない。	学級会をレベルアップさせよう	・アンケートから議題案の提案が少ないことに気付き、議題案の出し方から学級会カードの活用までの流れを確認する。	・学級をよりよくするための議題案を考えようとする児童が増えた。 ・学級会カードについて確認したことで、何について話し合うのかを明確にできるようになり、話合いがより充実した。
		学級をよりよくする活動をしよう	・月ごとの学級目標の達成度を振り返ることにより、課題意識を高める。 ・活動の一連の流れについて知る。 ・活動目標と議題案について考える。	・議題見付けの視点を参考にしながら、いろいろな議題案が出せるようになった。 ・学級の児童全員が活動目標を共有し、活動方法を共通理解することで参画意識が高まり、活動に積極的に取り組むようになった。
	・話合いがうまく進まない。	今までの学級会大改造計画	・担任が司会をして、計画委員会の役割や話合いの流れを確認する。	・それぞれの役割が明確になったことで、進んで活動しようとする児童が増えた。 ・話合いの進め方を児童全員が理解することで、安心して司会などの役割を果たすことができるようになり、司会などに協力しようとする姿も見られるようになってきた。

※　学級全体での話合いの後に、個人として解決方法などを自己決定した。

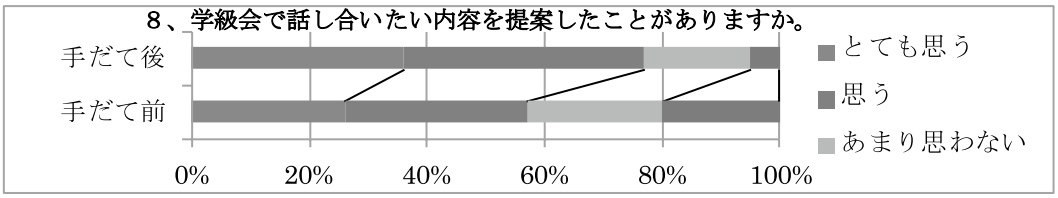
Ⅵ　研究の成果と課題

１　成果

視点を設定し、それぞれ具体的な手だてをとったことが有効であった。

（１）自分たちの課題から、議題を見付けられるようになった。

【議題を提案した事のある児童の割合の変化５７．４％→７７％】



（視点１　共同の目標をもたせる）

・学級目標の掲示をした。

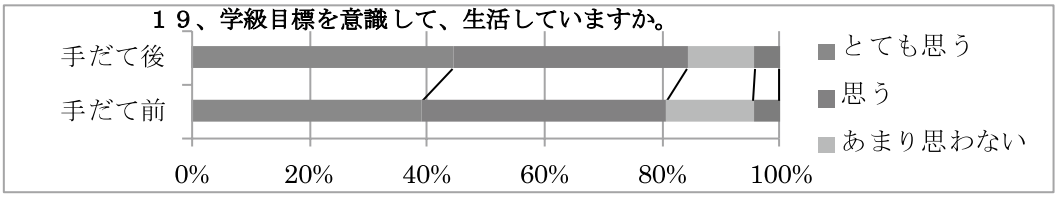
・学級目標の到達度を可視化した。

（視点２　見通しをもたせる）

・行事予定の提示を行った。

（２）常に共同の目標を意識して活動することができる児童が増えた。

【学級目標を意識している割合の変化８１．９％→８４．６％】



（視点２　共同の目標をもたせる）

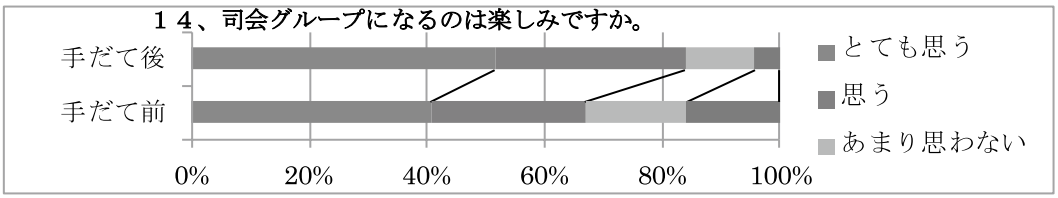
・活動目標を作り掲示し、学級会の中で確認する時間をとった。

・学級会カードを工夫し、振り返りでも意識させた。

・教師の助言を話し合いの中、終末にとり、活動への価値付けと評価を行った。

（３）積極的に司会グループになりたい児童が増えた。

【司会グループになりたい児童の割合の変化６９．９％→８３．９％】



（視点２　見通しをもたせる）

・計画委員会の綿密な指導（細かい想定をしての打ち合わせ）を行った。

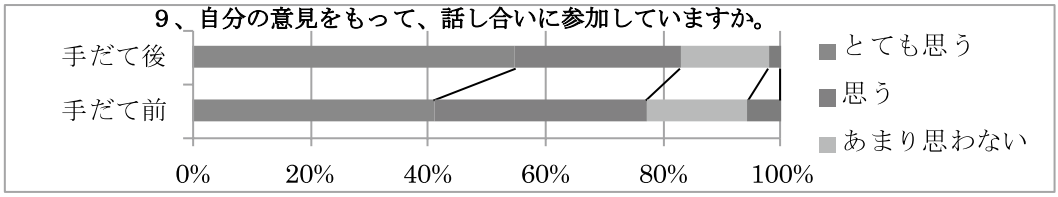
（視点３　役割意識を高める）

・板書の工夫（司会グループの黒板係が板書しやすくするために短冊を用いる）を行った。

・学級会グッズの工夫を行った。

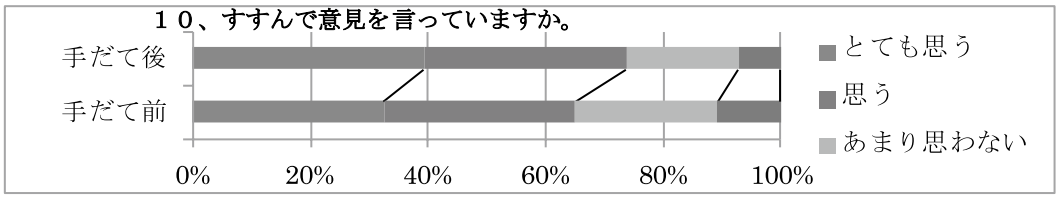
（４）自分の意見をもって学級会に参加している児童が増えた。

【自分の意見をもって話合いに参加する児童の割合の変化７９．１％→８３．２％】



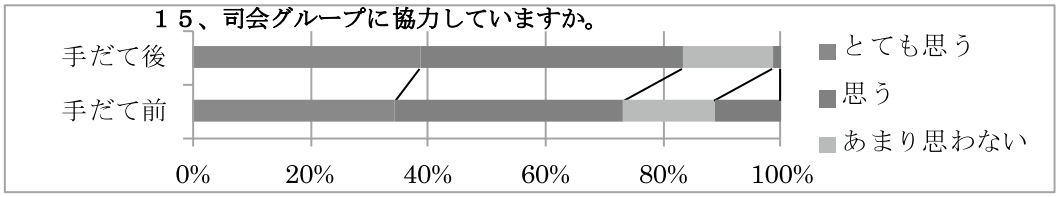
（５）話合いの流れが分かるので、安心して意見を言える児童が増えた。

【進んで意見を言える児童の割合の変化６８．７％→７４．５％】



（６）役割意識をもたせることで、司会グループに協力する割合も増えた。

【司会グループに協力する児童の割合の変化７５．６％→８３．２％】



（視点２　見通しをもたせる）

・板書の工夫（出された意見が消えないので、参加する意欲につながる。また、話し合いの流れも分かる）

・時間配分表の提示

・学級会コーナーの充実

（視点３　役割意識をもたせる）

・話合い後の自己評価と相互評価

以上のような結果から、三点の視点で指導の工夫を行うことで、学級全体が同じ方向を向いて、話合い活動が行えるようになってきた。司会グループとフロアが互いに協力し、話合いを進める姿からは『協同』を感じられた。また学級会で決まったことに対して、積極的に取り組む姿も見られた。学級の中でみんなで話し合って実践することのよさや楽しさを味わうことで、みんなで活動することを大切にするようになった。これはまさに「よりよい生活を目指し、協同して取り組む児童」の姿だと考える。

２　課題

（１）９月に行った学級会見直しオリエンテーションは、よりよい学級会を作っていくためには有効であった。今後は各学年で必要な指導を明確にし、４月の時点でのオリエンテーションに生かしていきたい。

（２）学級会コーナーの設置については、教室の壁面を多く使ってしまう課題が残った。何を設置するのか選定する必要がある。

平成２４年度　教育研究員名簿

小学校・特別活動

地区	学校名	職名	氏名
新　宿　区	新宿区立愛日小学校	主幹教諭	中野　有一郎
世田谷区	世田谷区立松丘小学校	主任教諭	椎木　　彩子
足　立　区	足立区立東綾瀬小学校	主任教諭	齋藤　　光代
武蔵野市	武蔵野市立第一小学校	主任教諭	千田　　高志
武蔵野市	武蔵野市立桜野小学校	主任教諭	山﨑　　恵理
府　中　市	府中市立住吉小学校	主任教諭	○山口　　佳子
調　布　市	調布市立第一小学校	主幹教諭	◎浅倉　　宏之
国分寺市	国分寺市立第五小学校	教　　諭	田村　香代子

◎世話人　○副世話人

〔担当〕東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課
統括指導主事　　小 瀬　和 彦
東京都教職員研修センター研修部授業力向上課
指 導 主 事　　神谷　なおみ

平成２４年度
教育研究員研究報告書

小学校・特別活動

東京都教育委員会印刷物登録
（平成２４年度第２４３号
平成２５年　３月）

編集・発行　東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地　東京都新宿区西新宿二丁目８番１号
電話番号　（０３）５３２０－６８８２
印 刷 会 社　株式会社　イマイシ